

# 各種手当の申請を



## ■児童扶養手当

対象▼18歳までのお子さんや、特別児童扶養手当を受給している20歳未満のお子さんがある父子家庭の父、母子家庭の母、またはそのお子さんを養育しているかた

支給額▼1人目のお子さんは月額4万1千430円、2人目は5千円を加算、3人目以降は1人につき3千円を加算

●公的年金(老齢福祉年金を除く)の給付があるかたは受給できません  
●申請者や同居している扶養義務者の所得が一定額以上ある場合は、一部または全部が受給できません  
●婚姻した場合は資格がなくなりま  
すので、必ず子ども総務課へ届け  
出てください

▼児童扶養手当の問い合わせ・申請は子ども総務課(市役所3階)へ。  
☎(866)89517

## ■特別児童扶養手当

対象▼身体または精神に中程度以上の障がいがある20歳未満のお子さんを養育しているかた

支給額▼1級(重度)は月額5万400円、2級(中度)は月額3万3千570円

## ■障害児福祉手当

対象▼20歳未満で身体障害者手帳のおおむね1級か療育手帳のおおむねA程度の障がいがあり、日常生活において常時介護を必要とする在宅のお子さん

支給額▼月額1万4千280円

## ■特別障害者手当

対象▼20歳以上で身体障害者手帳のおおむね1、2級程度の障がいがある複している、日常生活において常時特別な介護を必要とする在宅のかた

支給額▼月額2万6千260円

●特別児童扶養・障害児福祉・特別障害者手当は、認定基準に照らし合わせて支給を決定します。また、いずれも所得制限があります

●身体障害者手帳や療育手帳をお持ちでなくても、同程度の障がいがあるかた(施設入所者は除く)は対象になります

●特別障害者手当の受給者が、老人ホームなどへの入所や、病院、老人保健施設などへ継続して3か月以上入院した場合には、受給資格がなくなりますので、必ず障がい福祉課へ届け出てください

▼特別児童扶養手当、障害児福祉手当、特別障害者手当の問い合わせ・申請は障がい福祉課福祉棟1階へ。  
☎(866)2093  
☎(866)6362  
ファクス(863)6362

## 小・中学校 支援サポーター を募集します



市内小・中学校で活動する支援サポーターを募集します。勤務は今年4月から1年間。採用は、書類選考、面接で決定します。

### 1. 学級生活支援サポーター

内容▶障がいがあるお子さんの学校生活全般を支援 勤務▶1日4、5時間で週4、5日 報酬▶1時間1,250円 定員▶3人程度

問 秋田市教育研究所☎(865)2530

### 2. 学校行事等支援サポーター

内容▶運動会や校外学習などで、障がいがあるお子さんを支援 勤務▶1日1～6時間で月数回 報酬▶1時間1,250円 定員▶10人程度

問 秋田市教育研究所☎(865)2530

### 3. 日本語指導支援サポーター

内容▶海外出身などのため、日本語の指導が必要なお子さんを支援 勤務▶1日4、5時間で週4、5日 報酬▶1時間1,250円 定員▶3人程度 条件(①～③のいずれかを満たすこと)▶①日本語教育学会認定の日本語教育能力検定試験の合格者 ②日本語教師養成講座(420時間以上)の修了者 ③日本語指導の経験があるかた

問 学校教育課☎(866)2244

## 食品表示の確認が大事

食物アレルギーを防ぐには…



食物アレルギーとは、原因となる特定の食物を食べることで、じんま疹、おう吐、呼吸困難などの症状が起きることです。場合によっては、食べて30分以内に、全身に症状がおよんで急激に血圧が低下し、死に至ることもあります。

食物アレルギーを防ぐため、まずは、アレルギー物質が含まれていないか、食品表示をよく確認することが大事です。卵、乳、小麦、えび、かに、そば、落花生が微量でも含まれるときは、表示が義務づけられています(ただし、任意表示のアレルギー物質もあります)。また、「原材料の一部に○○、△△を含む」といったようにアレルギー物質をまとめて表示することもありません。

名称	えびせんべい
原材料名	えび、小麦粉、でんぷん、砂糖、食塩、調味料(アミノ酸等)

※本品製造工場では「卵」を含む製品を生産しています。

(食品表示記載例)  
そのほか、製造時にアレルギー物質が意図せず混入してしまふことがあり、欄外に注意を促す表示をする場合もあります。不安なときは商品に記載されている製造所などにお問い合わせください。

問 衛生検査課☎(883)1181

# ぎゅっと水切り しっかり紙も分別で **ごみ減量**



市役所庁舎に掲示されている看板デザイン

## おうちで気軽にごみ減量

### 生ごみ堆肥づくり講座

家庭で気軽に生ごみの減量に取り組むことができる、ダンボール箱やEM菌(専用バケツ)を活用した生ごみの堆肥づくりを学びます。約1時間の講座で、会場は環境部(寺内蛭根)です。先着各25人。参加者に堆肥づくりセット一式を差し上げます。

#### ダンボール箱を活用した講座

- ①3月2日(土)午前10時～
- ②3月3日(日)午後1時30分～

#### EM菌(専用バケツ)を活用した講座

- ①3月2日(土)午後1時30分～
- ②3月3日(日)午前10時～

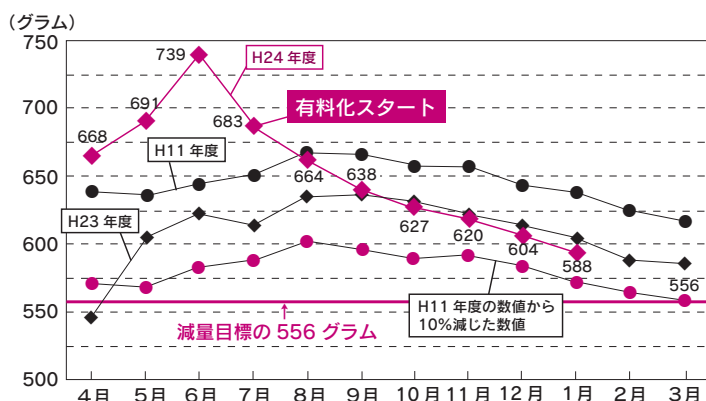
#### 申し込み

2月18日(月)午前9時から環境都市推進課☎(866)2943

**毎**日の生活の中でどうしても出てしまうごみ…。でも、普段から一人ひとりがごみ減量を意識してごみを少なくすることで、環境への負担も少なくすることができます。

1月末の市民一人1日当たりの家庭系ごみ排出量は588<sup>g</sup>。市が設定したごみ減量目標(グラフ参照)まであと32<sup>g</sup>です。まずは、身近なところから始められる「生ごみの水切り」「雑がみの分別」にご協力ください。環境都市推進課☎(866)2943

一人1日当たりの家庭系ごみの累計排出量



エコアちゃんと遊んだよ!

1月26日、西部市民サービスセンターで「冬のわくわく子どもデイ」が行われ、たくさんの親子連れでにぎわいました。途中、ごみ減量キャラクターのエコアちゃんが登場。子どもたちに囲まれながらしっかりエコ推進をPRしていました。



会場には、新聞と紙バッグなどで作ったエコなおもちゃがたくさん。上は釣り堀り、右は鏡もち。思わずパクツ!

## ごみ減量トピックス



### 新聞紙からエコバッグができました!

1月24日、総合環境センターで行われた施設見学会の参加者が、エコバッグづくりに挑戦しました。新聞紙とりのりだけを使って約1時間。できあがった自分だけのオリジナルバッグにみなさん大満足でした。



ちょっとした小物をまとめるのに便利です。新聞の広告面がデザインで見えるように、できあがりイメージで作るのがコツ